



「雪と氷の世界」

—雪は天からの恵み—

若濱五郎 著

東海大学出版会, 1995年3月,
157頁, 1854円

「雪えくぼ」って知っていますか。春先に、真っ白な新雪の上、いたる所にできる直径10cm程度の浅い凹みのことです。本書によると、柔らかい春の新雪の中で、とけ水が集まって小さな水みちができると、その部分の雪が縮まって表面が凹むのだそうです。雪国に住んだことのある人、旅をしたことのある人ならだれでも、雪えくぼの他にも自然界の雪や氷の造り出す美しく神秘的な光景に魅せられたことは少なくないでしょう。実際に自分の目で見なくても、テレビ等の映像で目に触れることも多いと思います。そのとき、「どうして」とその成因に疑問を持つことがあっても、たいていの場合、答えを見出せずそのままになっていることが多いのではないのでしょうか。そんな疑問に対する答えをこの本の中に数多く見出すことでしょう。

この本は、お弟子さんたちのすすめで、若濱先生が退官記念に執筆されたものです。先生のお人柄から、雪氷学の分野の多くの研究者仲間から貴重な写真が提供され、その写真を示しながら、先生が雪や氷の自然やそのすばらしい造形、雪氷と社会との係わり、更には雪氷と地球環境の相互作用について、わかり易い表現で紹介しています。

本書は

- 1章 冬きたる
- 2章 降る雪、積もった雪
- 3章 雪氷災害と克雪
- 4章 雪どけ、雪は水資源

5章 氷河

6章 雪氷圏

7章 雪氷と気候の関わり

8章 氷床の深層堀削による古気候・古環境の復元から構成されています。

6～8章を除くと、本書では一貫して、雪や氷の造形美を写真で紹介し、次にそのメカニズムを解説する手法が取られています。著者の説明がスーッと頭に入り、どんどん読み進める本です。これは、専門的で難解な表現を避け、誰にもわかる程良い説明となっているためでしょう。少し立ち入った専門的な解説は小さな文字で脚注に収めるというように、気配りも行き届いています。読者に氷河の流動性を理解してもらうのに不可欠との考えからか、5章後半だけは氷の物性について少々難しい話が続いています。

本書は、雪氷の科学、雪氷と社会との関わりを広くカバーする一般社会人向けの良い啓蒙書と位置付けることができるでしょう。「理科離れ」という言葉をよく見聞きする昨今、特に学校の理科教育に携わる先生方に読んでいただき、神秘的な写真を通して子供達に雪や氷の科学に興味を持たせるのに役立てて頂きたいものです。また、多くの学部学生の皆さんにも読んでいただきたい。雪氷の造形美に魅せられ、一人でも多くの学生が雪氷研究に進んでくれればと願います。地球環境問題における雪氷の重要性、雪氷学の将来性に1章をさいた若濱先生のねらいもそこにあったのではないのでしょうか。本書は、啓蒙書としてだけでなく、気象の仕事に携わっている者にも、これまでの知識の整理に役立つと同時に、随所に新鮮な発見をもたらしてくれる本でもあります。是非一読をお薦めします。

(気象研究所 村上 正隆)